

MACF礼拝説教要旨

2023年2月26日

『弟子として生きるとは』

ルカによる福音書14章25～33節

25大勢の群衆と一緒に来たが、イエスは振り向いて言われた。

26「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。

27自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。

28あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。

29そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、

30『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。 31また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。

32もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。

33だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

弟子となるための厳しい言葉が出てきます。

でも、本当のところどうなのでしょう。

イエス様は弟子たちに、全世界に出て行って全ての人を弟子とするようにと命令されました。

18イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。 19だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、 20あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイによる福音書28章）

でも、弟子となることがそれほど難しいなら、この命令は実効性のないものになってしまいます。

イエス様を信じれば、それですべてOKということではないことは誰でもが体験的に知っていることだと思います。

でも、弟子となるということについて、ちょっと真剣に考える必要がありますね。

1) 弟子になるとは

弟子という言葉の語源は「学び続けるもの」という意味があります。

ですから、弟子となるということはイエス様から、あるいはイエス様について神様の真実を学び続ける者という自覚を持って生きることになるでしょう。

それは当然、自分の人生を神様からの光に照らして考えたり、悩んだり学んだりしながら生きるということでもあると思います。

2) 「憎む」という言葉

私たちにとって、引っかかるのは「憎まなければ」いう訳語です。

これは実際に「憎む」という意味よりもむしろ「第二番目にする」という意味があるようです。

わかりやすく言えば、教室で英語を勉強している時には、英語に集中し家のこと、愛する人のこと、好きな趣味などについて、あれこれ思い悩むのをストップして英語学習に集中しなければ学びはすすみません。

英語を学んでいる時には、英語以外のものを「憎んで」いることになるのです。イエス様に向き合っている時、イエス様の言葉を心に受け止めようとする時それ以外のものに心を奪われないようにすること、イエス様に集中することそこに重要なポイントがありそうです。

3)自分の十字架を背負ってついていく

十字架は「恥」の象徴でした。自分の恥となるような無力、失敗、不徳、怠惰などを、そのまま自分のものとして認めつつ、イエス様についていく覚悟が求められています。

つまり、「完璧になったらイエス様に従います」ということではないのです。

「不十分で、恥をかくことさえある」自分を認めつつ、それでも、精一杯イエス様についていく決意は、どうしても必要になります。

つまり「誰でもついていける」のです。

4)持ち物を一切捨てる

33だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

とありますね。

これは前の段落にあるように、あれこれ算段したり、和平を求めたりすることの必要性が書かれているのですが、そのためには全面的にイエス様におまかせする必要があるということになると思います。

自分のすべてを「イエス様に一切お預けする決意で」前に進む必要があるということになると思います。

イエス様が提示する「平和のための」いろいろな手段のために、私の持っているものは全部イエス様に預けて、そのことのために、役に立つものがあったら、是非どうぞという意識でイエス様についていくわけです。

MACF礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/p6LhxTpvx1g>